

④ 昭和44年5月「県政ニュースNo.113」 ・ふるさとの四季・・・番楽と若者たち（五城目町）



県内でも、有数の米どころとして知られる馬場目川の流域には、2,000ヘクタールの沃野が開け、そこには、明日を担う若人達が、真剣に近代農業に取り組んでいる。そして、この若者達は、今、町に古くから伝わる、番楽の保存に力を入れている。五城目町には、中村、下山内、西野、恋地の四部落に、番楽が伝わってきたが、これを保存していく後継者が、悩みの種となっていた。

しかし、中村の番楽は、昨年から青年会が受け継ぎ、昨年秋の全県青年祭の芸能の部で、見事、優勝。これに

刺激された、他の部落の若者達も、番楽の保存に力を入れ出した。町でも、この四部落の意欲に応え、新年度予算に保存補助金を初めて計上し、年に数回の共演を行い、町民の郷土芸能に対する認識を深め、町ぐるみで保存に乗り出すことにした。忙しい農作業に入る前の、四月下旬。町の雀館公園で、若者達は町の人達に、その芸を初めて披露した。衣装、小道具に特徴のある、それぞれの番楽を力強く、また、優雅に舞う、若者達。こうした若い力が、古い伝統を立派に守り、新しい郷土を創り上げてゆくことであろう。

⑤ 昭和45年11月「県政ニュースNo.131」

・皇太子ご夫妻ご来県



この日は、心配された雨雲も次第に消え、まずまずの旅行日より。沿道の歓迎に、にこやかにお応えになりながら、秋田市へ。

県庁にお着きになったご夫妻は、バルコニーからおよそ4,000人の奉迎者に、大きく手を振ってお応えになった後、小畑知事の説明で、県民ホールに展示された県産品を、興味深くご覧になりました。

県庁を後にしたご夫妻は、この日、最後のお立ち寄り先、特別養護老人ホーム高清水寿光園をお訪ねになりました。この老人ホームには、現在、

51人のお年寄りが入園していますが、ご夫妻は1時間以上にわたって園内をお回りになり、お年寄り一人一人に、労りの言葉を述べられていました。

■ 秋田県公文書館 ■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018-866-8301

FAX 018-866-8303

E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】

平成29年度企画展「明治150年～秋田県の誕生～」

10月27日（金）～11月29日（水） 当館2階特別展示室にて開催中！

県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

平成29年11月3日（金）
午前の部 午前11時～正午

秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午後の部 午後2時～午後3時

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

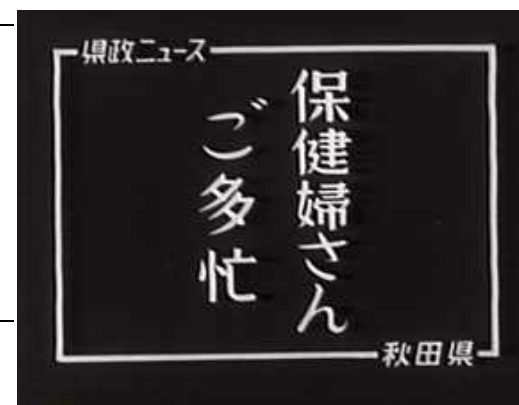
◆ 前半

① 昭和33年8月「県政ニュースNo.14」

- ・ 夏にきたえる
- ・ 新生活運動県大会開く
- ・ 県庁舎建設進む、築港30年を迎えて
- ・ 保健婦さんご多忙 ほか

② 昭和33年10月「県政ニュースNo.16」

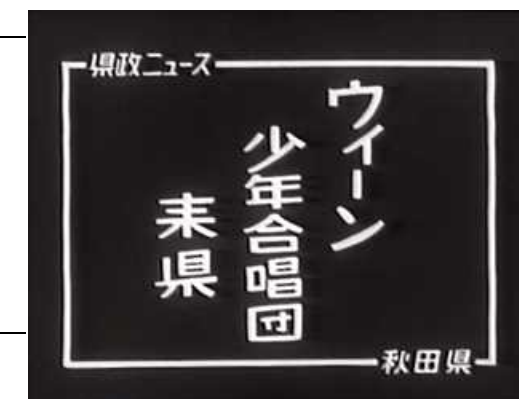
- ・ もっとたくさん牛乳を（旧大曲市ほか）
- ・ 竣工近い田沢発電所
- ・ 秩父宮妃殿下日赤奉仕団結成大会へ



◆ 後半

③ 昭和34年5月「県政ニュースNo.20」

- ・ 郷土を緑に
- ・ 喜びの開園（旧太平療育園）
- ・ ウィーン少年合唱団来県
- ・ 小畑知事再選なる ほか



④ 昭和44年5月「県政ニュースNo.113」

- ・ 準備進む秋田博
- ・ 第20回県植樹祭開く（湯沢市）
- ・ ふるさとの四季・・・番楽と若者たち（五城目町）

⑤ 昭和45年11月「県政ニュースNo.131」

- ・ 皇太子ご夫妻ご来県 ご視察
- ・ 田沢湖青少年スポーツセンター
- ・ 角館公民館
- ・ 県庁、県立水族館、なまはげ踊り
- ・ 大潟村公民館、雪沢山荘 ほか



～はじめに～

郷土秋田のニュース映像を5本上映！

かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で幕あいに上映され、その時々々の県政に関するニュースや各地域の話題などを提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢の皆様でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は「文化の日」にあわせて、昭和30年頃の保健婦の活動や牛乳まつりに関するニュースのほか、ふるさとの美しい四季を紹介する5本の作品を上映します。

どれも当時を偲ばせる貴重な映像ばかりです。懐かしい昭和の秋田をぜひご覧ください。



～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■

① 昭和33年8月「県政ニュースNo. 14」

・保健婦さんご多忙



私達は、保健婦です。県内の保健所や市町村にいる私達保健婦は、皆さんの健康の最も身近な相談相手として、毎日を過ごしています。

今日は、赤ちゃんの健康相談日。朝7時半の受付が始まると、ご覧のような賑やかさです。（バックに、赤ちゃんの泣き声が流れる。）

私達は、まず、赤ちゃんの体重や身長を測ったりして、色々、その健康状態を調べます。我が子の栄養を気遣う、お母さん達の真剣な相談が、私達に持ち込まれます。

（保健婦の声が流れる。） 「・・・それで、あの色々な種類の物を混ぜてやって下さい。色の付いたお野菜なんか、特にね。カボチャとかホウレンソウの漬した物とか、ジャガイモとかカボチャぐらい・・・」

やっと、安心した表情のお母さん。クルクルとした可愛い目。柔らかい小さな手も、段々馴染んでくれるような気がします。



今日は、家庭の病床患者の訪問日です。野良で会う人々も、今では顔なじみになり、挨拶にも温かい気持ちが通います。石ころの坂道に、体中が汗でビッショリ。ここの家は、2ヶ月振りの訪問です。元気がありますように。慰めの少ない患者さんが、笑顔で迎えてくれる時のホッとした気持ち。でも、今日はこの後、お母さん方と家族計画についての話し合いが待っています。

こうして、ペダルを踏む私達は、毎日の仕事が皆さんのお役に立っている喜びを、しみじみ、覚えるのです。

② 昭和33年10月「県政ニュースNo. 16」

・もっとたくさん牛乳を（旧大曲市ほか）



「牛乳をもっとたくさん飲みましょう」と、県内各地では牛乳まつりが行われました。中でも、雄平仙集約酪農地帯の中心、大曲市は、さすが中心地とあって、その趣向も格別。牛乳の本家本元である乳牛10頭が、この日のスター。

かすり、モンペ姿も初々しい、酪農家のミルク娘10人が、そのお相手役といったところ。こうして、市中を行進する「牛乳を飲もう、飲もう」のパレードの一幕は、効果満点、大変な人気を呼びました。

また、各地では、牛乳の知識を普及する講演会や、牛乳料理の講習会なども開かれました。牛乳をお茶代わりとまではまだまだでしょうが、「出来るだけ生活に牛乳を取り入れましょう」と、牛乳料理の講習会場は、どこも受講者で一杯でした。四つ足は一切口にしなかった農村の風習も、昔のこと。今では、「一汗流した後の一杯は、新鮮な牛乳で」といったあんばいです。健康な体は牛乳から。「もっと牛乳を飲みましょう」の運動は、米だけに頼っている本県の食生活の改善に、大きな役割をはたしていくことでしょう。



③ 昭和34年5月「県政ニュースNo. 20」 ・ウィーン少年合唱団来県



世界一の少年合唱団と言われるオーストリアのウィーン少年合唱団が、この程、秋田を訪れました。

一行は14才のアダム・エバルト君ら、22名の少年団員です。ホームには合唱団と顔なじみの聖霊学園の先生、クリトールドさんらの顔も見られました。

青い美しい目の音楽の天使達は、世界の人々の心に感動と和らぎを与えながら、はるばる国境を越えて愛する音楽の旅を続けているのです。

洋の東西は違っても、やはり子供です。もうすっかり、日本調が身に付いたようです。演奏会場の秋田市山王体育館に流れる、美しい歌声。



優れた素質と厳しい訓練から生まれる清らかな歌声は、人々に深い感銘を与えました。

